

## 社会福祉法人

# 神戸いのちの電話 事業案内

## 2020年度事業報告・2021年度事業計画

### ごあいさつ

社会福祉法人 神戸いのちの電話  
理事長 水野 雄二

世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルス COVID-19 感染が日本で確認されてから2年目の春を迎えています。長く続くこの感染症の影響下に多くの人々が恐怖と不安と閉塞感を感じ、依然として辛い日々を過ごしています。神戸いのちの電話もその影響を大きく受けた一年を過ごしましたが、引き続いて制約を受けながらも2021年度の歩みを始めています。未曾有の状況を経験した2020年度も、兵庫県、神戸市をはじめ多くの支援団体の皆様、維持・賛助会員の皆様、また相談員、研修委員、役員、評議員の皆様から、私どもの活動に対して、それぞれのお立場で多大なご支援、ご奉仕、ご協力を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

2020年度の神戸いのちの電話は、コロナ感染予防のため、一時期は活動を休止し、また業務時間を短縮せざるを得ない状況となりました。これは阪神淡路大震災以来の出来事でありました。しかし、徐々に体制を整え関係者の感染予防に細心の留意を図りながら、活動を継続することができました。

全国の統計によると、1998年に自殺者が3万人を超えて以来14年間も3万人を下ることのなかった数が、2012年から10年続けて3万人を下回り、2020年は2万人を切る期待もありましたが、2020年の総数は20,929人(前年比750人増)であったという報告がありました。兵庫県においても前年比12名増の889人でした。特にコロナの影響によるものか、女性と子どもの自殺者が増加し、特に小中高生は1980年以降で最多となりました。

2020年度の神戸いのちの電話は年間9,948件の電話相談を受け、その数は休業や短縮期間があったため前年よりは減少(2,993件減)しましたが、3000件を超えるお受けできなかった多くの悩める人々の存在を認識するものです。これからもコロナ禍による生活困難や健康への不安感は増大することが予想され、憂慮すべき現状です。そして何よりも数字では計れない多くの方々の苦痛や悩みの深さを思う時に、お一人お一人の個別なケースに対応して、私たちの役割は更に大きく求められることと確信しています。

神戸いのちの電話はこのように大きな社会的意義を持つ活動でありながら、一方で大きな課題をもって、日々活動を続けています。目標である24時間365日の電話受信の実現には、まだまだクリアすべき課題があり、深夜帯での電話相談の拡充を目指していきます。そのための相談員の確保、維持、養成には更なる努力が必要です。

また、近年、クローズアップされる若者の電話離れ、SNSへの依存という現象に対して、青少年のネット相談という需要にいのちの電話という仕組みはどのように対応していけるか、検討を続けなければなりません。

そして、財政の健全化は依然として私たちの大きな課題です。

このような課題を持ちつつ、私たちにできることは小さなことかも知れませんが、長く大切にしてきた活動を継続し、少しでも悩み苦しむ人々に、特にコロナ禍で苦しむ人々にも寄り添うことができれば、と願っています。

世界中の新型コロナウイルス感染の状況やワクチン接種の進捗は国々によって大きく異なり、格差が鮮明になっているように感じます。しかし、このコロナウイルスこそ地球が一つであり、同じ課題を全世界で共有したとすることはなかったのではないのでしょうか。同様に、世界中の多くの課題を世界中で解決しようとする目標の共有が2015年にすべての国連加盟国で合意されています。SDGs(エス・ディ・ジーズ)として最近よく取り上げられる「持続可能な開発目標」で、2030年までの達成を目指しています。これは地球温暖化防止などの環境問題を主題にしていると思われがちですが、その理念は「誰一人取り残されない」という言葉で示される人類全体に関わる理想で、その17の目標には①貧困 ②飢餓 ③健康と福祉 ④教育 ⑤ジェンダーなど、幅広い人類の課題解決の方向性が示されています。

福祉においても「誰一人取り残されない」ことが理想で、パンデミックが鮮明にした様々な格差の中で、どのように人々の幸福を共有することができるかがSDGsの取組となっています。

SDGsは壮大な地球全体の課題への目標ですが、その取組は私たちの足元にある些細な日常課題へのアプローチです。ペットボトルを少なくしよう、お買い物にはマイバックを持参しよう、というように。神戸いのちの電話が取り組む「福祉」も、世界や日本全体を視野にすることではなく、またSDGsを意識することもない、目の前の受話器の向こうにいる「声の主」一人一人のパーソナルな「福祉」ですが、その「福祉」が地域社会の福祉となって、世界に繋がっていくものと信じます。

神戸いのちの電話は皆様のお支えにより、今年度に関局40周年を迎えます。今後もこの活動の維持発展のために、皆様の温かいお励ましとご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度役員			
理事長	水野 雄二	評議員	横山 政夫
理事	濱 浩一		川崎 厚志
	井出 浩		飛田 雄一
	宗行 孝之介		安行 英文
	藤井 薫		井上 真二
	中道 京子		上谷 佳宏
	宮里 哲秀		南部 真理子
監事	山根 泉		高内 憲一
	上杉 徹		石川 益子

※2021年6月から、理事・監事は2年間、評議員は4年間の任期です。

## I. 2020年度 事業報告 (2020年4月1日～2021年3月31日)

## 1. 電話相談活動

名 称	神戸いのちの電話	自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
電話番号	078-371-4343	0120-783-556
電話相談 時間帯	月曜～金曜:8:30～20:30(第2、3、4金曜は以下に) 土曜:8:30～日曜:16:00(連続31時間30分) 第2、3、4金曜:8:30～土曜～日曜:16:00 (連続55時間30分) 祝日:8:30～16:00 ※緊急事態宣言等による活動時間の縮小は下段に示す	①毎月10日:8:00～ 翌11日:8:00(連続24時間) ②毎日フリーダイヤル(6月～):全国で 16:00～21:00実施、神戸では月・ 水・金の16:00～20:00に実施 ※以下の数字は①と②の合計
受信件数 2020年度	総数:9,948件(うち深夜帯:1,073件) 内訳:男性:5,065件、女性:4,883件	総数:1,132件(うち深夜帯:215件) 内訳:男性:537件、女性:595件
上記の 自殺傾向	826件(総数に対する比率:8.3%) 内訳:男性:413件、女性:413件	209件(総数に対する比率:18.5%) 内訳:男性:93件、女性:116件
段階別	念慮:781件、危険:29件、予告通告:13件、実行中:3件	念慮:200、危険:7、予告通告:2、 実行中:0
受信件数 2020年のみ	総数:10,727件(うち深夜帯:1,283件) 内訳:男性:5,630件、女性:5,097件	1,028件(うち深夜帯:249件) 内訳:男性:504件、女性:524件
上記の 自殺傾向	792件(総数に対する比率:7.4%) 内訳:男性:395件、女性:397件	187件(総数に対する比率:18.2%) 内訳:男性:82件、女性:105件
段階別	念慮:739件、危険:35件、予告通告:14件、実行中:4件	念慮:178、危険:7、予告通告:2、 実行中:0
開局以来の累積受信数	総受信件数 470,466件 (男性:266,857件、女性:203,609件)	
相談員在籍数(4月1日)	145人(男性:19人、女性:126人)	前年:154人(男性17人、女性:137人)

## ※活動時間帯などの詳細

期 間	時 間 帯	備 考
4月11日(土)～4月17日(金)	9:00～17:00、	緊急事態宣言 (4月7日～5月21日)
(うち土日)	9:00～16:00 深夜帯なし	
4月18日(土)～5月24日(日)	活動休止	
5月25日(月)～6月2日(火)	10:00～16:00	6月10日フリーダイヤル24h実施
(うち土日、28日も)	活動休止、深夜帯なし	
6月3日(水)～6月16日(火)	9:00～17:00	6月22日～ 毎日フリーダイヤルに参加
(うち土日)	9:00～16:00、深夜帯なし	
6月17日(水)～7月3日(金)	8:30～20:30	
(うち土)	8:30～20:30、深夜帯なし	
(うち日)	8:30～16:00	
7月4日(土)～	従来の状態に戻る	
1月15日(金)～2月28日(日)	11:45～18:30	緊急事態宣言 (1月14日～2月28日) 2月10日フリーダイヤル昼間のみ実施
(うち土)	11:45～15:00、深夜帯なし	
(うち日祝)	12:15～16:00	
3月1日(月)、2日(火)	8:30～18:15	
3月3日(水)～	従来の状態に戻る	

## 2. 継続研修

※以下の敬称の省略、順不同などご了承ください

名称	継続研修	受講対象者:相談員全員(休会者を除く)	121人		
構成	12グループ(更新相談員は前年と異なるグループに振り分けて11グループ、10月認定の35期 新任相談員は1グループで6か月間)				
実施	コロナ禍により、4、5月は休止、6~3月は毎月実施、計10回実施 (6~8月:コロナ禍に対する相談員のケア及び事例研修、9~12月:事例(録音)によるグループ・ス ーパービジョン、1~3月:自殺予防フリーダイヤル研修をうち1回実施し、他の2回は上記と同じグル ープ・スーパービジョン)				
担当 研修 委員	藤井 薫(35期)【5】※10月~	藤井 薫【11】	井出 浩【11】	阪田憲二郎【11】	
	本多雅子【11】	戸田みな子【10】	南部眞理子【11】	白石大介【11】	都村尚子【11】
	岡田由美子【11】	原口美佐代【11】	長谷川 泉【12】	【】は担当相談員数(4月当初)	
振り返りの 会	位置づけ	一年間の振り返り、各継続研修グループ代表と研修委員による協議・反省等			
	日程	3月23日(火)午後			
	参加者	研修委員4名、相談員13名、事務局2名 計19名			

## 3. 各種研修

名称	全体研修ロールプレイ	受講対象者:相談員全員(休会者を除く)
内容	自殺予防フリーダイヤル研修;ハンドブックの読み合わせやレジメに基づいての研修	
日程	1月から3月のうちの継続研修において(1回)	講師 継続研修担当の研修委員

## 4. スーパービジョン

目的	相談員の電話相談による心理的負荷へのケア	対象者:希望する相談員
	相談員の振り返り、聴き方の再確認など	対象者:新任相談員及び指定された更新相談員
日程	7月30日;9月4日、29日;11月1日、4日、6日、9日、11日、16日、17日、18日、 20日、26日、27日、30日;12月1日、5日、7日、11日、14日、15日、16日、21日、22日; 1月6日、12日、25日;2月15日;3月29日	
担当者 (研修委員)	戸田(8)、白石(7)、本多(7)、南部(7)、藤井(5)、長谷川(4)、原口(2)、岡田(1)、都村(1) ※()内の数字は担当した人数	
受講者	希望者等:延べ8人、新任相談員(35期):5人、20~24期:24人、その他:6人 ;合計43人	

## 5-1. 養成講座(35期)…仮認定期間(4月1日~9月30日)

日程	オリエンテーション	5月20日	
	電話実習	期間:7月7日~8月11日、受講生6人、延べ実習回数:13回 モニター(研修委員):藤井、本多、戸田、南部、岡田	
内容	継続研修	6月16日、7月15日、8月19日、9月16日、担当研修委員:藤井薫	
	判定会議	8月25日(研修委員会にて) ※コロナ禍で研修委員会を判定会議として認定者決定	認定:5名
	認定式	10月10日、総合福祉センター第1、2研修室 出席者:理事長、研修委員5名、35期生5名、相談員11名、事務局3名	

## 5-2. 養成講座(36期)…木曜夜間実施

面接	10月31日(土)午後、11月1日(日)午後	応募:25人→受講(合格):24人
	11月5日(木) 担当:白石大介	テーマ:いのちの電話はなぜボランティア活動なのか
講義	11月12日(木) 担当:本多雅子	テーマ:電話相談の基本①

日程	講義	1月21日(木) 担当:都村尚子 テーマ:電話相談の基本②
	一日研修	11月21日(土)、会場:神戸市総合福祉センター、参加者(養成生):21人 担当者(研修委員):井出、藤井、南部、本多 ※一泊研修ができないための代替研修
内容	ロールプレイⅠ	12月3日、10日、17日、24日、1月14日 受講者24人、担当者(研修委員):白石、藤井、岩崎、本多+アシスタント4人
	ロールプレイⅡ	1月28日、2月4日、18日 受講者24人、担当者(研修委員):岩崎、本多+アシスタント4人
	ロールプレイⅢ	2月25日、3月4日、11日、18日、25日 受講者24人、担当者(研修委員):南部、戸田+アシスタント4人
	担当者会議	10月29日、出席者:研修委員:藤井、本多、戸田、岩崎、アシスタント4人、事務局1人
	進級会議	3月25日、出席者(研修委員):白石、藤井、本多、南部、岩崎、戸田 進級:23名

## 6. 公開講座…会場はすべて神戸市総合福祉センター

※年度当初の予定は4月から8回の連続講座であったが、コロナ禍により、10月4回の連続講座に変更

名称	『生きづらさの中を生きる(4回連続講座)』【木曜夜間開催】	
10月1日	講師:岡田由美子、『家族の始まりを支える』	受講:59人
10月8日	講師:南部真理子、『虐待、その関係性への思い』	受講:58人
10月15日	講師:井出浩、『心の病について』	受講:66人
10月25日	講師:白石大介、『人生における危機とその対応』	受講:56人
名称	『あなたをひとりぼっちにさせない～そっと寄り添い、じっくり聴くために』 ※37期相談員養成講座説明会	
3月27日(土)午後	講師:岩崎久志、『若者の自殺予防』	受講:44人

## 7. 広報活動

広報等の印刷・発送	◎広報78号、6月印刷(2,000部)、7月16日、支援者・関係団体へ発送 ◎事業案内(2019~20年度版)、6月印刷(1,000部)、7月16日、広報と共に発送 ◎広報79号、12月印刷(2,500部)、12月19日、支援者・関係団体へ発送
学校等へ配布	◎学校関係への配布(広報の発送に合わせて、連盟の自殺防止のポスターと共に、年2回) 兵庫県立高・特別支援学校(220)、神戸市立小・中・高(270)、県内私立小・中・高(100)、 尼崎市立学校(80)、明石市立学校(行政機関を含む)(140)

## 8. 事務局

内部監査	期日:5月21日(木)午後、事務局、山根、上杉両監事による(理事長、会計顧問も立会い)
資産登記	期日:6月24日(水)午後、神戸地方法務局

## 9. 日本いのちの電話連盟関係行事

2018年度日本いのちの電話連盟定時社員総会	6月26日(金)、書面評決にて
中部・近畿ブロック会議	1月18日(月)午後、はりまセンター主催、リモート方式で開催、 水野理事長、宮里事務局長、正岡事務局員参加

## 10. 兵庫県・神戸市の自殺対策会議

兵庫県自殺対策連絡協議会	8月4日(火)午後、ラッセホール、正岡事務局員出席
神戸市自殺対策推進協議会	11月19日(木)午後、市総合福祉センター、正岡事務局員出席

## 11. 外部向け活動報告など

兵庫県自殺防止キャンペーン ～通行人へのティッシュ配布	日時:11月30日(月)昼、12月21日(月)昼、3月11日(木)昼 場所:神戸三宮地下旧 OPA 前、参加:宮里事務局長、事務局員
マスコミ取材(新聞)	朝日新聞:6月25日(木)午後、1月26日(火)午後:事務局にて 読売新聞:10月12日(月)午後、2月24日(水)午後、事務局にて
マスコミ取材(テレビ)	読売 TV:10月26日(月)午後、NHKTV:11月30日(月)午後、 ともに事務局等にて取材
他団体との交流	9月9日(水)午後、MDRT ソニー生命 2 社員来訪、寄付の拝受、当法人 の活動の説明(ビデオ撮影・社員研修に活用)、事務局にて 10月9日(金)午後、ゲートキーパー支援センター(阪神尼崎駅前)にて、 情報交換、宮里事務局長、正岡事務局員参加

## 12. 委員会・部活動

委 員 会	理事会	【5回】6月3日(書面評決)、8月8日(書面評決)、9月29日(青少年会館)、 12月15日、3月16日
	評議員会	【3回】7月2日(定時、書面評決)、8月9日(書面評決)、3月16日
	運営委員会	【6回】6月5日(書面評決)、6月16日(近隣研修委員事務所)、 8月18日(青少年会館)、10月20日、12月7日、3月2日
	研修委員会	【8回】4月21日、5月27日、6月30日(以上、近隣研修委員事務所)、 8月25日(青少年会館)、10月6日、11月17日、1月19日、3月23日
	相談員委員会	【8回】7月13日、9月7日、10月5日、11月9日、12月7日、1月12日、 2月8日、3月15日 ※4月～6月はコロナ禍で開催できず
	広報委員会	【3回】9月4日、10月29日、3月26日
	ハンドブック改訂 ワーキンググループ	【6回】12月16日、1月27日、2月10日、2月24日、3月10日、3月24日
	財務委員会	【1回】3月10日
統計小委員会	【2回】9月4日、3月26日	

相 談 員 の 会  部 活 動	事業部	部会 1 回、バザーは中止、事務局内での物品販売→収益を法人に
	相談業務部	部会 4 回、交流会は中止、環境づくり、資源台帳の更新など
	紫陽花編集部	部会 11 回、内部広報紙『紫陽花』の編集・発行(4月のみ発行できず)
	24時間委員会※1	部会 9 回、自主研修は中止、24時間化・当番空き枠への取組み
	財務部※2	部会 5 回、外部広報誌、寄付領収書発送の手伝い、寄付依頼の発送
	広報部※3	部会 3 回、外部広報誌の編集・発送
	イベント部	部会 0 回、イベントは中止

※1 正式名称は 24 時間眠らない電話小委員会、※2 財務委員会に参加、※3 広報委員会に参加

## 13. その他の活動

近畿ブロック合同研修会 (JR 西日本あんしん社会財団後援)	10月12日(月)午後、大阪 YMCA 会館、相談員 4 名参加、
組織基盤強化勉強会 (ひょうごコミュニティ財団主催)	11月24日(火)、12月17日(木)、1月7日(木)、 事務局員 2 名、ズームでの勉強会に参加
ハラスメント防止研修会 ※講師:上谷評議員(弁護士)	2月1日(月)夜間【73】、2月27日(土)録画視聴:午前【34】・午後【20】、 3月16日(火)夜間【13】:役員用、【】内は受講者数、総数 140 名

## Ⅱ. 2021年度 事業計画

神戸いのちの電話は、1981年任意団体として開局、2002年に社会福祉法人として認可され、多くの方々のご支援によって本年開局40年目を迎えます。

自殺者年間3万人以上が14年間も続いた最悪の状況に対して、官民一体となって取り組んできた結果、2012年に3万人を切り、その後も着実に減少し、2019年には2万人を切る寸前にまで来ていました。しかし2020年度は新型コロナウイルス蔓延によって、生活苦や将来に対する不安などから自殺者が増加し、前年の自殺者数を上回ってしまう結果となりました。その内訳も、女性や若者の比率が増大するという、これまでになかった傾向が見られます。そして「いのちの電話」が最も必要とされる時期ではありましたが、残念ながら相談員自身の感染を防ぐため電話相談活動の休止や時間帯を縮小せざるを得ない状態となりました。

このような状況を踏まえ、神戸いのちの電話として、2021年度は以下の事項を重点に取り組んでいきます。

- ◎電話相談体制をコロナ禍以前の状態に早く戻し、公開講座、相談員養成講座は感染対策を徹底した上で、計画通り実施する。
- ◎相談員数の増加を図る。そのため、相談員の負担を軽減することや新任相談員のサポート体制を整える。また若手相談員の増加を図るための方策を検討する。これによって、コロナ後には電話相談時間帯の拡大など電話相談24時間365日の実現を目指す。
- ◎相談員のスキルアップ、心のケアなど支援体制を充実する。そのため、実際の相談電話に則した継続研修を実施して、相談員の心のケアや電話相談における悩みの軽減に向けての仕組みを充実する。

以上の重点事項に基づいて、以下の通り個別に具体的な活動を行なっていきます。

### 1. 電話相談事業

- ①電話相談時間は、平日・土曜の12時間(8:30~20:30)、日曜・祝日は7.5時間(8:30~16:00)とする。
- ②365日無休での電話相談活動を実施し、第2、第3、第4金曜日と毎週土曜日に深夜帯も活動を行う。また毎週金曜日の深夜帯実施へ向けて検討を進める。
- ③全国統一の毎月10日のフリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」は、24時間(8:00~翌朝8:00)での対応を継続して実施し、また昨年8月より実施中の「毎日フリーダイヤル」への参加も継続する。
- ④相談員の電話当番予約については、引き続きインターネット化を推進するほか、急な当番キャンセルにスピーカーに対応できる「空き枠緊急連絡網」を活用し、電話当番不在時間帯の防止に努める。

### 2. 相談員養成の充実と相談員の増員

- ①36期の「相談員養成講座」は、コロナ禍で当初の予定が遅れたものの9月の仮認定へ向けて研修が進行中。37期の「相談員養成講座」は、6~7月の8回シリーズの公開講座の後、7月末の面接を経て開始され、2022年4月の仮認定、その後1年間のインターン期間を経て、2023年4月に認定となる予定。
- ②6月からの公開講座とその後の養成講座は木曜日夜間実施とする。
- ③休会や退会した相談員のための「復帰プログラム」を関係者へ周知し、相談員への復帰促進を図る。
- ④新任相談員の定着を図るため、相談員の心のケアのためのスーパービジョンを新任相談員へも認定1年後に定例実施するなど、新任相談員へのサポート体制の構築を進める。
- ⑤若手(学生を含む)相談員の育成を図るため、養成講座の受講料軽減などの方策を検討する。

### 3. 相談員研修の充実

- ①必修の研修として、「継続研修」11グループ(9月の36期仮認定後は13グループになる予定)を毎月実施する。

- ②「全体研修」(必須)についてはコロナ禍を考慮した実施を検討し、またフリーダイヤル・ロールプレイ研修は、従来通り講義と実習を組み合わせる方法で継続実施する。
- ③相談員の心のケアのための「スーパービジョン」を認定5年目までの相談員やベテラン相談員にも3年に1度程度実施し、相談員をサポートする。
- ④統計小委員会による電話相談内容の調査研究を推進し、その成果を研修などへ活用する。
- ⑤実際の相談電話に則した継続研修を行って、聴く力の向上や緊急対応への共通理解の形成を目指す。
- ⑥情報の共有と相談員の質の向上を図るため、研修委員の一泊研修を実施する。

#### 4. 事業資金の確保

- ①会費の確保、増収を図るため、会員の明確化、会員名簿の作成などによる会員制度の整備を行う。また新しい会員候補へ呼びかけに力を入れる。その際、国や神戸市から認可を受けた税額控除制度(2012年12月から所得税(国税)に関して神戸市より対象法人認可、2017年9月から神戸市市民税に関して対象法人認可)を対外的に広く情宣し、成果につなげる。
- ②法人財政の健全化を目指し、財務委員会と広報委員会との協力による積極的な広報活動を展開する。
- ③種々の助成金の申請(今年度も相談員の研修費負担軽減を図る。またボランティア保険代も補助金にて充当)する。

#### 5. 相談員の会の活動の活性化

- ①相談員の会執行部を中心に、相談員相互の助け合い、継続研修グループでの支えあい(心のケア)を強める。
- ②相談員委員会を通じて、各部・委員会活動の相互協力を推進し、継続研修グループとの連携を強める。
- ③相談員委員会を通じて、フリーダイヤルや深夜帯への参加を促し、電話当番の空き枠の解消を図る。

#### 6. 広報・啓発活動

- ①公開講座の開催や、諸団体の講演会などへの講師の派遣による本法人への理解・協力を呼びかける。
- ②広報誌、ホームページの内容充実による本法人への理解・協力を呼びかける。
- ③広報誌、リーフレットなどをより多く団体や個人に配布して、本法人への理解・協力を呼びかける。

#### 7. 自殺予防のための特別事業(厚生労働省補助事業フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」)

- ①毎月10日のフリーダイヤル(24時間)及び昨年度から実施の「毎日フリーダイヤル」へ継続参加する。
- ②全相談員へのフリーダイヤル・ロールプレイ研修を実施する。

#### 8. 兵庫県・神戸市の自殺対策の会合への委員の派遣

- ①兵庫県自殺対策連絡協議会
- ②神戸市自殺対策推進懇談会

#### 9. その他

- ①相談員の一層のスキルアップを図るため、冊子「相談員ハンドブック」の内容を精査し改訂する。
- ②ハラスメント防止規程の制定に伴い、その趣旨が法人の構成メンバーに浸透するように研修を実施する。
- ③恒例としてきた相談員・関係者の集いは、感染対策などを勘案して、今年度は秋開催を目指す。
- ④本年の「神戸いのちの電話」開局40周年に関して、記念式典は感染状況などを勘案し開催せず、記録集の作成のみとする。



## Ⅲ. 資金ボランティア、助成金など

## ☆資金ボランティア

これまで資金ボランティアとして会費や寄付を頂いた方々のお名前、団体名を記載していましたが、個人情報保護の考え方から、今回より記載を取りやめさせていただくことに致しました。ご了承ください。

今回から件数と総額、過去5年間の総額の推移を記載させていただくことに致します。

## 【維持会費】 278件 1,289,000円

年度	2015	2016	2017	2018	2019
円	887,000	884,000	1,136,000	1,273,000	1,200,000

## 【賛助会費】 21件 320,000円

年度	2015	2016	2017	2018	2019
円	459,000	380,000	290,000	710,000	390,000

## 【一般寄付】 227件 3,067,922円

年度	2015	2016	2017	2018	2019
円	2,813,985	2,043,362	2,520,936	2,107,850	2,018,039

※JR西日本あんしん社会財団からの援助100万円は2015年までは寄付金として分類していましたが、2016年からは助成金として分類しております。

## 【広告掲載(外部広報)】 15件

年度	2015	2016	2017	2018	2019
件	16	14	13	15	16

## ☆2020年度助成金などの内訳

## ○補助金(行政団体から)

	金額	対象活動・項目
兵庫県(いのち対策室)	3,075,000	電話相談活動全般の維持費、継続研修経費
神戸市(精神保健福祉センター)	1,500,000	養成講座経費、深夜帯・FD担当の交通費
兵庫県社会福祉協議会 (ひょうごボランティア基金友愛事業)	194,000	相談員の部活動の交通費、事業案内の印刷費、 ハンドブックWG等の活動補助

## ○助成金(民間団体から)

	金額	対象活動・項目
JR西日本あんしん社会財団	1,000,000	相談員の心のケア(SV、研修委員による)、 外部広報誌の印刷費
県共同募金会(歳末助け合い)	140,000	12月外部広報発送費、IT機器関連経費
神戸新聞厚生事業団ほか	37,780	項目など特定せず

## IV. 2020年度収支決算書並びに2021年度予算書 (単位 円)

## 【事業活動による収支】

《収入》	項目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
	事業(養成講座等)収入	590,000	576,000	600,000
	部活動等からの収入	240,000	313,566	250,000
	維持・賛助会費収入	1,560,000	1,609,000	1,450,000
	補助金・助成金収入	6,852,780	5,946,780	7,700,000
	一般寄付収入	2,280,000	3,067,922	1,800,000
	雑収入	86,100	124,445	131,000
	収入計	11,608,880	11,637,713	11,931,000

《支出》	項目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
	人件費	2,961,787	3,394,527	3,410,000
	事務費	198,000	198,000	0
	事業費	7,215,532	7,295,412	8,210,000
	支出計	10,375,319	10,887,939	11,620,000

## 【施設設備等による収支】

【収入】		0	0	0
【支出】	固定資産取得支出	0	402,600	0

## 【その他の活動による収支】

【収入】		0	0	0
【支出】	積立資産積立支出	0	517,931	0

【事業活動以外による収支の計】	0	△920,531	0
-----------------	---	----------	---

【当期末支払資金残高】	13,389,632	12,503,252	12,814,252
-------------	------------	------------	------------

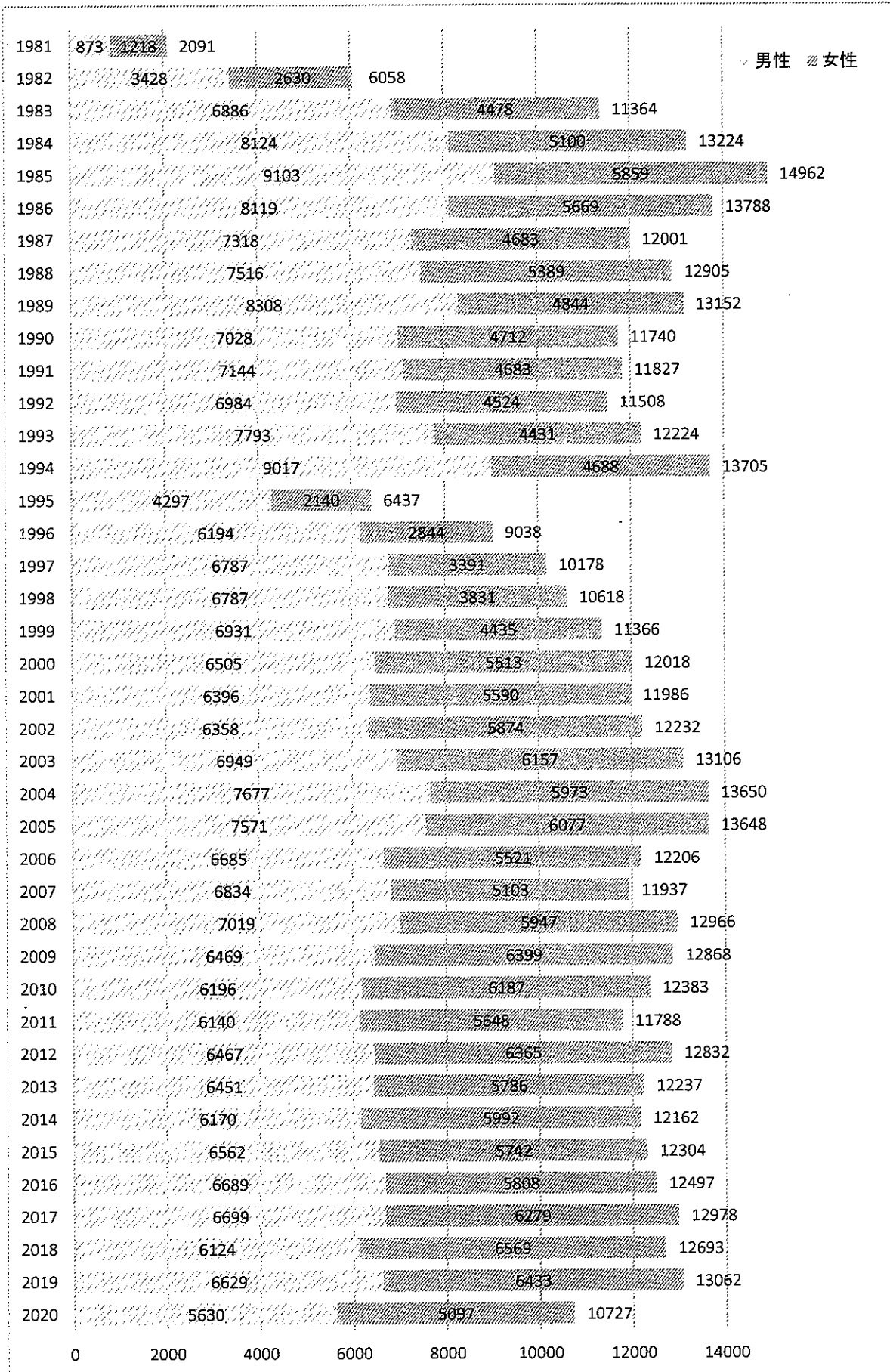
※1:2020年度の予算額は年度当初の数字ではなく、年度末の3月に理事会・評議員会で承認された補正予算です。

※2:2021年度の予算額で事務費が0となっているが、これは本法人の支出はすべて電話相談事業に関係するもので、事務局維持にのみ支出するものはないということです。

後援会メンバー (敬称略)	会長	雀部昌吾(バンドー化学)	世話人	寺本 督(淡路屋)
	副会長	野澤太郎(ノザワ)	〃	藤尾益也(神明)
	副会長	中道基夫(神戸YMCA)	〃	高嶋良平(高嶋酒類食品)
	世話人	瀧川博司(兵庫トヨタ)	〃	下村俊子(神戸風月堂)

# V. 2019年神戸いのちの電話統計

年間総受信件数の推移(1981~2020年)



累計 男性 266,857件 女性 203,609件 合計 470,466件

発行月	2021年6月
発行者	社会福祉法人 神戸いのちの電話
発行責任者	理事長 水野 雄二
住所	〒650-8691 神戸支店郵便私書箱1103号
電話/FAX	078-371-4405/078-371-4355
E-mail	<a href="mailto:kind4343@viola.ocn.ne.jp">kind4343@viola.ocn.ne.jp</a>
Webページ	<a href="https://kobe-lifeline.org">https://kobe-lifeline.org</a>